

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会 水化学管理分科会
第13回 HWC標準作業会 議事録

1. 日時 : 平成24年6月14日(木) 13:30~15:30
2. 場所 : 日本原子力発電(株) 本店 2階 第3会議室
3. 出席者 : (敬称略)
(委員) 内田、和田、小野、小藪、太田、寺門、久宗
(常時参加者) 北島、山本、太田、塙、上山、勝村
4. 配布資料 :
 - 13-0 第13回 HWC標準作業会 議事次第
 - 13-1 第12回 HWC標準作業会 議事録(案)
 - 13-2 水素注入による環境改善効果の評価方法ガイドライン
 - 13-3 HWC標準作成の今後の進め方(内田主査資料)
 - 13-4 原子力学会HWC標準の進め方(和田委員資料)
 - 13-5 沸騰水型原子炉一次冷却系構造材料の腐食電位の解析実施方法
5. 議事概要 :
 - (1) 出席者の確認
出席者の確認を行い、委員8名中7名出席しており、必要な定足数を満足していることを確認した。
 - (2) 前回議事録確認
久宗幹事より、資料13-1「第11回 HWC標準作業会 議事録(案)」の説明があり原案どおり承認された。
 - (3) HWC標準作業会の活動再開について
内田主査より、2011年3月1日に発生した東北地方太平洋沖地震および東京電力/福島第一事故対応により約1年間活動を休止したが、産業界(特に電力会社)からHWC標準策定のニーズが高いことから、活動を再開し約1年を目途に標準原案を作成するとの説明があった。
 - (4) 水素注入による環境改善効果の評価方法ガイドラインについて
寺門委員より、平成24年3月に原技協が制定した予防保全工法ガイドライン「水素注入による環境保全効果の評価方法」の概要について説明があり、機械学会維持規格で定めるオーステナイト系ステンレス鋼のSCCき裂進展速度を適用するため、目標電位($-100\text{mV}_{\text{SHE}}$)となる水素注入量を評価する手法について規定する必要性について説明があった。
 - (5) HWC標準作成の進め方
ECP評価モデル(ラジオリシスモデル)による解析の妥当性を第3者(標準委員会等)に理解してもらうための示し方を検討しておく必要がある。
解析の妥当性の一助として、ラジオリシスモデル・ECPモデルおよび全体解析結果を論文として投稿し、論文を引用することによりECP解析の妥当性を説明することとし、平成24年年末を目途に論文を作成する。
(原電、日立、東芝アクション)
ECP解析結果と実測値の検証については、V&V法を用いることとし、V&V法の専門家(例:東京大学/越塚先生)に検証法についてチェック

&レビューを受けることを検討する。

HWC標準として規定する事項として、「水素注入により炉内ECPを解析評価する手順」または「解析モデル」を考え、次回の作業会で検討することとした。

(6) その他

次回（第14回HWC標準作業会）は、8月1日（水）14：00～17：00に原電本店2階の第3会議室で開催することとした。

以上